

これからのアカデミック・アドバイジング

清水 栄子（愛媛大学 教育・学生支援機構 准教授）

講師略歴

専門は高等教育、アカデミック・アドバイジング、学習支援、教職員能力開発。広島大学教育研究科人間科学専攻博士課程修了（博士（教育学））。国立高等専門学校法人阿南工業高等専門学校FD 高度化推進室特命講師、愛媛大学教育企画室助教、講師、追手門学院大学共通教育機構准教授などを経て、2024年4月より愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授。2026年4月からは同機構学習支援コモンズにも所属。日本アカデミック・アドバイジング協会（JAAA）会長。著書に『大学の学習支援 Q&A』（共編著）、『アカデミック・アドバイジングーその専門性と実践ー日本の大学へのアメリカの示唆』（単著）などがある。

プログラム概要

アカデミック・アドバイジングは、学修者本位の教育を支える取り組みとして、近年日本の大学において注目されています。日本の大学ではこれまで、ゼミ指導教員やクラス担任、学生支援に関わる事務組織や職員などが、その機能の一部を担ってきました。学生の多様化が進む中、大学では履修指導にとどまらず、学生一人ひとりの学びや成長を支える支援の必要性が高まっています。また、個別対応だけでなく、教職員の連携を含めた組織的な支援体制の構築も求められています。

本研修では、アカデミック・アドバイジングの基本的な考え方や役割について理解するとともに、国内の実践事例を通してその特徴や現状を整理します。そのうえで、今後の日本の大学において求められるアカデミック・アドバイジングについて、実践者と組織体制の両面から考え、所属機関における実践の可能性を提案するための視点を検討します。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

1. アカデミック・アドバイジングを担当している教職員
2. アカデミック・アドバイジングに興味・関心のある教職員

到達目標

1. アカデミック・アドバイジングの役割と意義を説明できる
2. アカデミック・アドバイジングの実践の特徴を整理できる
3. 所属機関におけるアカデミック・アドバイジングの実践の可能性を提案できる